

Daily Report (号外)

～7月の米雇用統計について～

結果概要

米国労働省が8月7日に発表した7月の雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比-2.3万人と市場予想(同+8.0万人)を下回る結果となりました。

業種別では、娯楽・宿泊業が同-4.0万人(前月:同-4.3万人)、小売業が同-1.9万人(前月:同-0.4万人)と減少が継続した一方で、情報業は同+1.1万人(前月:同-1.3万人)と増加に転じるなど、業種ごとにまちまちの動きとなりました。

失業率は4.1%と市場予想(4.2%)を下回り、前月(4.2%)から低下しました。

労働参加率は61.4%と市場予想(61.6%)を下回る結果となり、約5年半ぶりの低水準となりました。

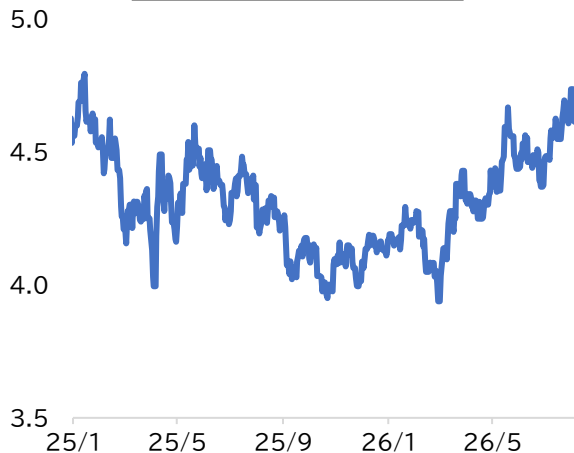
市場反応(8月7日の米国市場)

米国株式市場は、米国雇用統計で非農業部門雇用者数が市場予想を下回ったことから利上げ観測が後退し、米国長期金利が低下したことを好感して買いが優勢となり、NYダウ平均株価は前日比+0.28%、S&P500指数は同+0.62%、ナスダック総合指数は同+1.30%となりました。

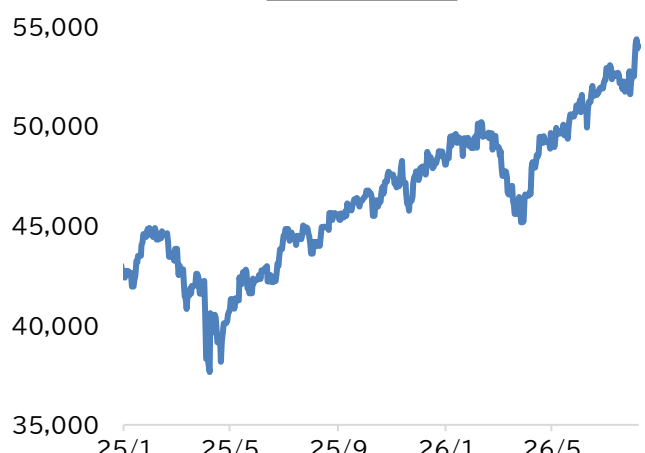
米国債券市場では、低調な米国雇用統計の結果からFRBが利上げを急がないとの見方が広がったことで買いが優勢となり、10年債利回りは前日比-0.03%の4.65%程度で引けました。

米ドル/円は、米国雇用統計発表後に米国長期金利が低下し日米金利差が縮小したことで、円買い・ドル売りが優勢となり、前日比67銭円高・ドル安の157円76銭程度となりました。

(%) 米10年国債利回りの推移



(ドル) NYダウの推移



(期間)2025/1/1～2026/8/7(出所)Bloomberg

評価及び今後の見通し

7月の米雇用統計は、非農業部門雇用者数が予想を大きく下回り、5カ月ぶりの減少となりました。失業率は低下したものの、労働参加率の低下や賃金上昇率の鈍化が影響したものと考えられます。

今回の結果を受けて、金利先物市場ではFRBの利上げ観測が後退しています。一方で、インフレ率は依然としてFRBの目標を上回って推移していることから、FRBはインフレリスクと景気下振れリスクの双方を見極める必要があり、今後も慎重な政策運営を続けると考えられます。

今後の米国株式市場は、短期的には8月12日発表の米消費者物価指数、8月14日発表の米小売売上高など、インフレや消費の動向を測る主要指標の発表に注目が集まると見込まれます。

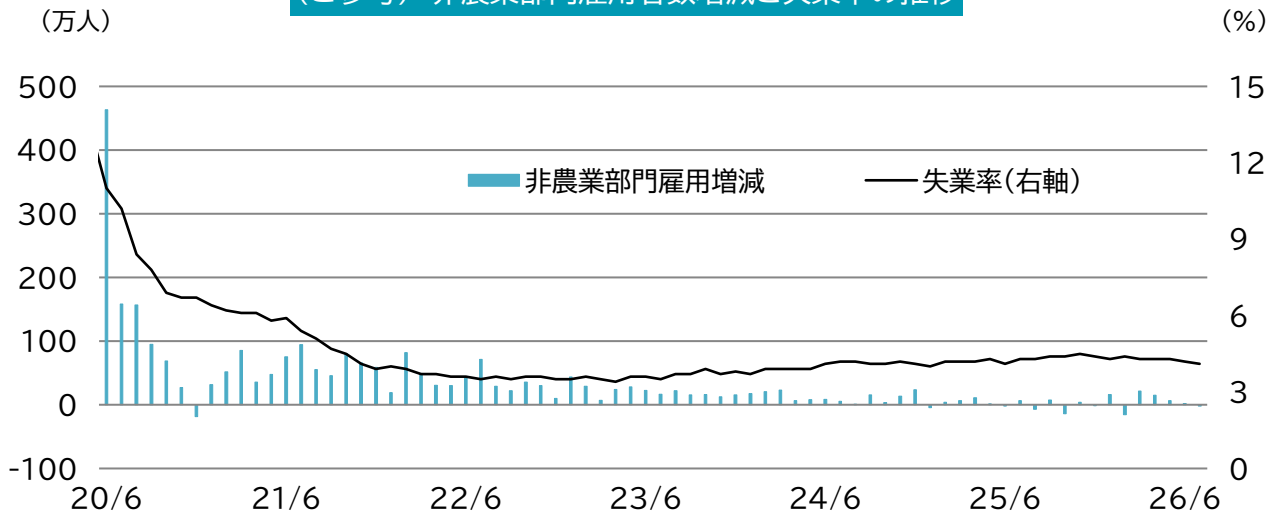
今回の雇用統計の結果は、労働市場の軟化を示す内容となりました。今後は物価や個人消費関連指標の結果を踏まえ、FRBの金融政策を見極める展開が続くことから、金融市場はボラティリティの高い展開が継続すると見えています。

(ご参考) 主要業種別雇用者数増減(前月比・万人)

出所: 米国労働省

	26/2	26/3	26/4	26/5	26/6	26/7
非農業部門	-15.6	+21.4	+14.8	+6.3	+2.0	-2.3
鉱工業部門	-2.1	+3.3	+0.6	+0.3	+1.4	+2.5
建設業	-2.1	+1.5	+0.3	+0.2	+0.5	+2.2
製造業	+0.1	+1.5	-0.1	-0.2	+1.1	+0.5
資源・鉱業	-0.1	+0.3	+0.4	+0.3	-0.2	-0.2
サービス部門	-12.7	+16.9	+14.4	+5.8	+1.6	+0.5
卸売業	+0.8	-0.2	+0.1	+0.3	+0.3	+0.5
小売業	-0.0	+1.0	+2.4	+0.5	-0.4	-1.9
輸送・倉庫業	-4.6	+2.5	+3.9	+0.1	-1.1	+1.0
情報	-2.3	+0.1	-0.6	-0.5	-1.3	+1.1
金融	+0.2	-1.7	-0.6	-2.0	-0.2	-1.4
専門・ビジネスサービス業	+0.4	+2.8	+2.0	+0.6	+3.4	+1.8
人材派遣業	+0.2	+0.8	+1.1	+0.0	+1.1	+0.3
教育・ヘルスケア業	-4.9	+9.5	+6.7	+2.4	+5.4	+2.5
娯楽・宿泊業	-3.1	+4.4	-0.7	+4.2	-4.3	-4.0
その他	0.6	-2.3	0.2	0.2	-1.3	0.7
政府部門	-0.8	+1.2	-0.2	+0.2	-1.0	-5.3
失業率(%)	4.4	4.3	4.3	4.3	4.2	4.1
平均時給(前年同月比、%)	3.7	3.4	3.6	3.3	3.4	3.2

(ご参考) 非農業部門雇用者数増減と失業率の推移



(期間) 2020年6月~2026年7月 (出所) Bloomberg